

2010 国税

消費者行動に関する次の問に答えよ。

(1) 次の用語の定義について、指定の字数以内で、それぞれ簡潔に述べよ。

①上級財（正常財）（40字以内）

②需要の価格弾力性（60字以内）

(2) 価格の変化が需要に与える効果について、ギッフェン財のケースで説明せよ。なお、解答にあたっては、代替効果と所得効果について言及し、図を用いて説明すること。

(3) 消費者が上級財である X 財、Y 財を消費する状況において、政府が補助を実施することにした。

この補助の形態としては、

①X 財の消費に係わる費用の半額を政府が負担する政策

②上記①の経費と同額の予算で消費者への所得補助を行う政策

があるとする。これらの政策の効果を比較し、消費者の効用水準の観点からいずれの政策が望ましいかを説明せよ。なお、解答にあたっては、無差別曲線と予算制約線を使い、図を用いて説明すること。

解答例

(1)

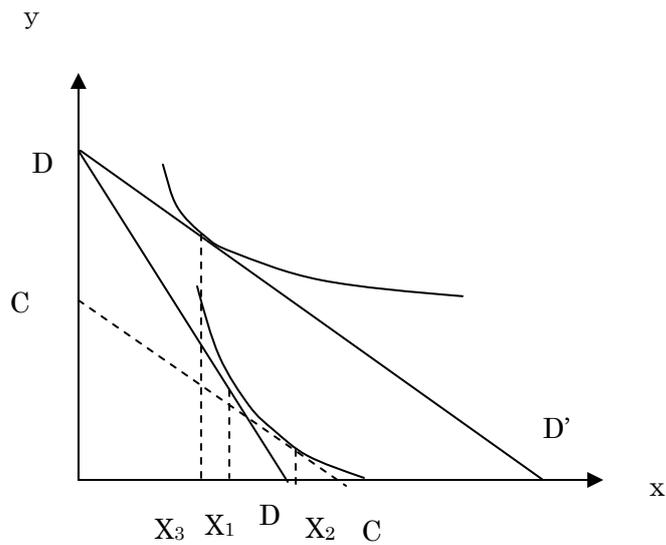
①所得が増加すると、消費が増加する性質を持つ財

②価格が1パーセント変化すると需要量が何パーセント変化するかという指数

(2) ギッフェン財とは、下級財のうち、代替効果よりも所得効果が大きく働く財である。

こうした財では価格の下落によって需要がかえって減少してしまうことになり、需要曲線は右上がりとなる。以下、題意に沿って図を用いて価格が下落した場合のギッフェン財の代替効果、所得効果、総効果について説明する。

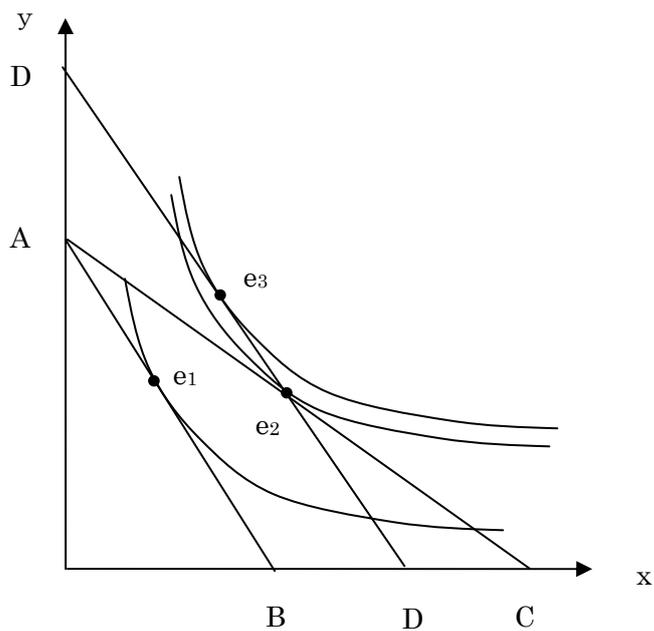
次の図は x 財をギッフェン財とした場合の図である。



この図は、スルツキー分析を行ったものである。X財は価格下落により需要量が X_1 から X_3 まで減っていることになる。このときに、代替効果により X_1 から X_2 まで、需要は増加しているが、所得効果により X_2 から X_3 まで需要は減っている。この図では所得効果のマイナス分の方が、代替効果のプラス分よりも小さく結果として価格下落により需要(総効果)は減少しており、ギッフェン財となる。

(3)

- ① まず、X財に対して半額の補助をした場合について考える。この場合 X財の価格が半額になったのと同じなので、予算制約線の傾斜が半分になる。(AB から AC へとシフトする)



このとき、効用水準は e_1 から e_2 に変化し、上昇していることがわかる。
 ここで、所得政策により、半額の補助と同額の所得補助を行った場合、新たな予算制約線は図の e_2 を通り、元の予算制約に平行な直線 DD となる。このときの、最適消費点は図の e_3 となり効用が e_2 よりも上昇する。したがって、政府が補助を行うのであれば、個別の財へ補助をするよりも所得補助を行った方が経済厚生の方から望ましいことがわかる。